



# OVERSEAS

## Republic of India

— インド共和国 —

### 海外事情



## 魅力的な国インド ～ニューデリーおよびアーメダバード～



**西澤 知孝** NISHIZAWA Tomotaka  
株式会社千代田コンサルタント/構造事業部構造部鉄道構造室/室長

インドのムンバイ～アーメダバード間(約500km)を約2時間で結ぶ高速鉄道の建設プロジェクトで、鉄道高架橋の設計を行うため、2017年8月1日から4泊6日で現地踏査に行ってきました。ニューデリーおよびアーメダバードへ行った感じたことを記載します。

#### 渡航準備

インドに現地踏査に行くことが

決まり、ワクチンを接種した方が良くアドバイスを受けました。病院を紹介してもらい、A型肝炎、破傷風、腸チフス、狂犬病、日本脳炎のワクチンを接種しました。狂犬病は全部で3回ワクチンを接種する必要があり、接種間隔が決められているため接種が完了するまでに約1ヶ月もの時間がかかりました。ただ、インドは野良犬が大変多く

される方は狂犬病のワクチン接種をしておくと思えます。

インドはヒンディー語が公用語、英語は補助公用語のため、日本語・英語・ヒンディー語ができる通訳を手配することを勧められました。旅行代理店に通訳の手配を依頼したところ、日本語・英語・ヒンディー語の3か国語ができる通訳をアーメダバードでは見つけれないため、ニューデリー在住の通



図1 ニューデリーおよびアーメダバード位置図 (GoogleMapに加筆)



写真1 街中を歩く牛



写真2 最終日のランチ



写真3 中央分離帯で立ち往生

訳をアーメダバードまで連れて行くことを提案されました。通訳料と別にニューデリー⇄アーメダバード間の往復飛行機代・宿泊代が必要になるためコスト面が不安でしたが、提示された料金は想像よりはるかに安価で、問題なく依頼することができました。今回の現地踏査では、インドに到着した直後から通訳兼ガイドのシンさんに帯同していただき、とてもスムーズに現地踏査が進められました。

#### 通貨と為替レートと言語

使用通貨はルピー (Rupee, Rs)、当時1ルピーは約1.7円でした。インドは多民族国家のためヒンディー語が公用語、英語は補助公用語で、他にもアッサム語・ベンガル語・グジャラート語など様々な言語が使用されています。100ルピー札には合計17もの言語が記載されており、インドの多様性を象徴しています。ヒンディー語でNAMASTE (ナマステ) —こんにちは。この言葉は朝でも夜でも使える便利な言葉です。ホテルでも朝出発する際や夕方帰ってくる際に、「ナマステ」と挨拶しました。挨拶するときの動作は、胸の前で両手を合わせ、軽くお辞儀します。

#### 気候

インドは広いので地域によっても違いがありますが、6～9月は雨季にあたりこの時期は大変雨が多い季節です。私は運が良く雨に降られることはありませんでしたが、1週間前に別のチームが現地踏査した際は、豪雨で全く現地踏査できなかったようです。

8月のデリーは最高気温40℃の暑さでした。8月でも相当暑かったですが、最も暑いのは5月頃だそうです。5月というと日本では春～初夏にあたり気持ちの良い季節ですが、デリーでは猛暑のため4～6月の観光旅行は控えるほうが得策のようです。(私は5月のデリーを経験していませんが、駐在の方からお聞きました。)

#### 宗教

インドはヒンドゥー教が80%程度です。ヒンドゥー教では、牛は神聖視され、崇拝の対象となっています。牛が道を歩いていますが、人間より何より牛が優先されており、日本ではとても考えられない世界です。ヒンドゥー教で禁止されている食べ物は、肉全般 (特に牛、豚)、魚介類、卵、生もの、五葷 (ごくん: ニンニク、ニラ、ラッ

キョウ、玉ねぎ、アサツキ) です。肉は鶏肉、羊肉は食べることができます。ヒンドゥー教ではベジタリアンが多いことが納得できます。

#### 食事

せっかくインドに来たので現地の食事を食べたいと思い、たくさんのカレーを食べました。現地踏査1日目は北インドカレー、2日目は南インドカレー、3日目はどこのカレーか忘れました (涙)。どのカレーも美味しく、最終日に食べたチーズナンの美味しさは格別でした。2016年7月にバングラデシュの首都ダッカでテロがあったため、滞在中は身の安全を最優先とし夜間の外出は避けるようにしていました。朝夜は基本的にホテルで食事を取り、無難な日本食やイタリアンなどを食べて過ごしました。最終日の夜は少し冒険し、通訳兼ガイドのシンさん無しで、ホテルから徒歩10分ほどにあるレストランに行きました。インドに来てからは常に車移動だったため、ホテルからレストランまで歩いたこと自体がとても新鮮でした。道路の交通量が多く、信号がない道を横断するのはドキドキしました。



写真4 街中で売っているチャイ

### お酒

ニューデリーではお酒が飲めませんが、アーメダバードがあるグジャラート州は禁酒の州で許可申請書がないとお酒を買うこともできません。私はお酒が苦手なのでまったく問題なかったのですが、上司はお酒を飲みたいだろうと思い、お酒を購入するための許可申請を行いました。申請はWEB上からで、氏名・生年月日・住所・メールアドレス・携帯番号などの必要事項を入力し顔写真をアップロードすると、申請時に入力したアドレスに申請書が届きます。届いた申

請書をホテルのフロントに持参し、ホテルのサインをもらおうと申請書の完成です。私は申請書が発行された後、シンさんをお願いして酒屋へ案内してもらいました。まだ明るい夕方の方の時間でしたが、怪しげな地下にある薄暗い酒屋でお酒を買いました。ビール500mlで110ルピーと、日本円で200円程度です。インドの物価からするとかなり高く感じら

れます。どうしてもお酒が飲みたいという方は、少々手間がかかりますが、申請書があれば、お酒を買うことができますので、試してみたいかがでしょうか。

### 鉄道駅

アーメダバードはインドの都市で人口第7位であり、アーメダバード駅は人が多く、駅前にはインドのタクシーであるオートリキシャ(トゥクトゥク)が並んでいました。駅構内は日本のような改札口はなく、自由に入ることができました。駅に停車している列車内のトイレ

は便器の下に穴が空いているだけの作りでした。つまり、線路上に垂れ流しのスタイルです。駅の線路脇にはホースが設置されており、トイレから排出されたものを水で流しているようです。日本でも列車にトイレが設置された当初は垂れ流しだったようです。私は知らなかったもので、勉強になりました。

アーメダバード駅から北に5~6kmに位置するサバルマティ駅に行きました。駅に列車が到着すると、乗客は気の向くままに行きたい方角へ歩き始めました。線路内も構わず歩いている光景は日本では考えられません。「海外に来たな」と習慣の違いを感じました。近くに跨線橋がありましたが、使われていませんでした。線路を横断したほうが早いんですね。

### 世界遺産とニューデリーの街並み

最終日の朝ニューデリーへ戻り、夜の帰国便まで時間があつたので、世界遺産などを観光しました。

フマユーン廟は、市中心部から東南東に数km離れて位置し、中央にドームが配置され左右対称の建築であり、イスラム建築の美しさを堪能できます。水路と木々が



写真7 クトゥブ・ミナール



写真8 ニューデリー中心部の様子

あふれる庭園はとても綺麗です。インドの有名な世界遺産と言えば、タージ・マハルですが、このフマユーン廟は、約100年後に建てられたタージ・マハルなどの建設に多大な影響を与えたと言われています。

クトゥブ・ミナールは、ニューデリーの郊外約15km南に位置し、塔の高さは72.5mで、世界最大のミナレット(イスラムの塔)です。近づいて見ると細かなイスラム装飾が施されており、当時の技術の高さがうかがえます。

ニューデリー中心部の街並みは、英領期に都市計画によって建設されたため、とても綺麗になっているそうです。他のインドのゴチャゴチャした街並みと全く異なり驚きます。

### お土産

最終日にお土産屋に行きました。私が買ったお土産の中から3つ紹介します。

インドは世界最大の紅茶生産国

です。ダージリンやアッサムは聞いたことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。どちらもインドの地名がもともになっています。ダージリンは、インド北東部の西ベンガル州北部に位置するダージリン地方で生産される紅茶で、味・香りの評価が高く世界の三大紅茶のひとつです。ファーストフラッシュやセカンドフラッシュなど、収穫する時期によって味・香りが変わります。

インドのお土産として定番であるスパイスは100円以下で買えるものもあります。複数のスパイスを混ぜ合わせたマサラ、カレーに不可欠なターメリックやクミンなどいろいろあります。お財布にも優しく、カレー好きに喜ばれるお土産です。

インドは宝石大国で、研磨加工地として世界最大級です。他のお土産に比べると高額になりますが、日本で買うより安く買えるかもしれません。気に入った宝石があれば買ってよいですね。



写真9 通訳兼ガイドのシンさんと

### 最後に

2020年5月にインドへ行くこと計画をしていましたが、残念ながらCOVID-19により断念しました。高速鉄道建設プロジェクトが完成したら、再びインドに行き、美味しいカレーを食べて、お土産を買いたいと思います!



写真5 アーメダバード駅前



写真6 フマユーン廟